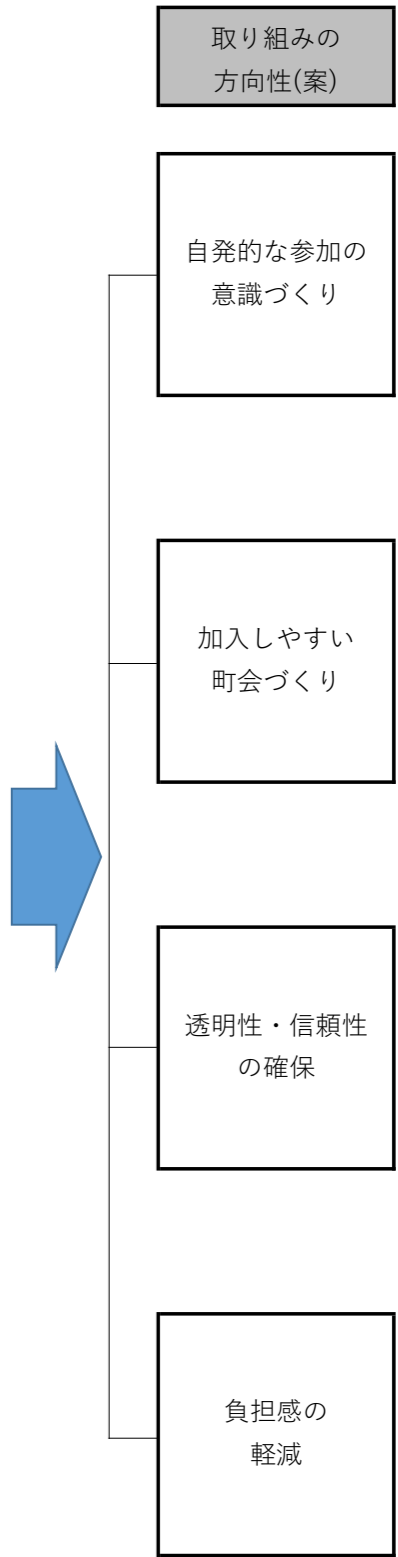


1 これまでの「検討会議」における主な意見

(1) 課題・問題

大分類	中分類	NO.	課題・問題
人材に関すること	町会に関する意識醸成（住民側）	1	イベントを企画しても市内の人より市外の人がある。私は様々な方法で広報などに力を入れているのに、そもそも住民が新聞など見ていないことも問題。
		2	町会側は加入してもらえよう努力をしているが、地域住民はメリットデメリットの話ばかりしてくる。全市的に町会に対する意識が低い。
		3	町会に入っていない若い世代の意識を改革していくことが根本的に必要。世代間の考え方の違いをどうやって繋げていくか。
		4	何のために町会があるのかわからないという人もいるため、逆に町会に参加しないと不公平になるようにできないか。
		5	日頃から信頼関係が築かれていないと、災害の時に知らない家の人同士助け合うことは難しいと思うので、地域と関わる機会を増やしていくことが望ましい。
		6	「町会の活性化」＝「加入率の向上」ではない。町会の活性化は、住民との繋がりを強くし、円滑に活動を行っていくこと。東部の加入率は高く、加入率が低いのは、町内会に対する意識の問題。
	若い人の参加	7	在宅福祉ふれあい事業を行っているが、老々介護的な声かけになっているので、若い人の参加が必要。
		8	コミュニティ・スクールができて、地域で子どもを育てていく考え方に变化。町会は人材の宝庫だと思うので力を借りたい。地域の皆様の力を借りて子育てしていくことを発信していきたい。
		9	子どもたちが町会の行事に参加すると、保護者もついてくるので、このように若い人たちが町会の行事に参加出来るような仕組みづくりが大切。
		10	市職員の町会加入率は100%であるべきではないか。
活動に関すること	多様な団体との連携	11	町会と学校の関係性は、ギブアンドテイクではなく、ウィンウィンでないと続かない。
		12	町会と学校が連携を図るうえで、町会区域と学校区域の違いが支障になることがある。
		13	前回の会議で意見が出ていたが、町会と学校の連携は不可欠だと思うので、町会の区域と学校の校区を統一することはできないか。
		14	学校内の行事は問題ないが、学校外の行事は、町会同士でコミュニケーションを取ってもらい、フォローしてもらっている。わかりやすい区域になれば活動しやすい。
		15	町会だけで全てを行おうとせず他団体に助けを求める姿勢が、今後、より重要になってくる。
	町会活動	16	町会によって活動に差がある。町会の活動も均一化していけるものなのか考えていきたい。
		17	市や学校から回覧依頼がたくさん来て郵便配達をしているような気分。回覧依頼が当たり前の状態になっているのをなんとかしてほしい。
		18	若い世代の人たちは集金に行くという業務が煩わしいと感じていると思うので、集金方法を考える必要がある。
		19	会員の中には、班長をやって会費を集めに行くことがめんどろだから町会をやめたいという人や、町会費を振込にできないかという方もいる。
		20	賃料に町会費を含む物件もあるにはあるが、大家さんが理解してくれてそういう物件になっている。町会費分を賃料に上乗せすると入居率が下がるのではないかという意見もある。
		21	社内アンケート調査を行ったところ、7割近くが未加入だった。意見としては加入の勧誘に来ていないとの理由が多かったが、これも町会の人手不足が原因だと思う。
	住民の方々への情報発信	22	回覧物が多く、町民からの苦情も増えているが、一方で、ホームページやスマホなどネットに頼った場合、高齢者に情報が届かないという問題がある。
		23	総会資料を町会未加入者も含めて全戸配付しているが、加入率は低い。
		24	スマホで情報を得られるので回覧板はいらないという人もいるが、紙媒体でないと伝えられないこともたくさんある。
		25	ネットやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）は情報を簡単に収集できる一方、自分の意思で情報を得ない選択もできる。
運営に関すること	町会に関する意識醸成（町会側）	26	町会未加入者も参加できる新しい行事を企画したが、役員等の理解を得るのに非常に苦勞し、時間も数年かかった。
		27	町会は、勧誘しているのに入ってくれないと考えてしまうが、町会に入らない人は入らないの理由があるので、そのような人の意見も受け止めていった方が良い。
		28	仕事を終えた世代が活動の中心になるのは仕方がない。ただし、その世代の意見が強くて若い人が入れない、意見が通らないということにならないよう風通しを良くしなければならない。
	公平負担	29	街路灯など、市民全員が恩恵を受けているのに、一部の人の負担で維持されているのは不公平なので税金等で徴収できないか。税金が入るからには会費の使い道や役員報酬など明瞭な会計が必要。
		30	街路灯など市内に住む全員が恩恵を受けている物に対する公平負担が必要。
財源確保	31	活性化には財源が重要だが、町会ごとで活動内容が違うため、一律いくらにするとすることは難しいと思う。	
その他		32	個人情報保護の関係で難しいだろうが、地域にどのような人が住んでいるかを把握し共有することが、災害時などは特に重要だと思う。
		33	町会費のアンバランスさが加入率にも影響を与えているのではないか。
		34	市長が言った、町会費を税金として徴収するような方法は、難しいと思っているが、進捗はどうなっているか。



1 これまでの「検討会議」における主な意見

(2) 提案

取り組みの方向性(案)	NO.	提案
自発的な参加の意識づくり	1	町会に関わっていない市民に町会活動をもっと知ってもらう。
	2	町会に入らなければならない必要性や、入ることのでられるメリットを明確にしたうえで広報する。
	3	地域内で連携を図ろうとした場合、漠然としたテーマではなく、「防災」について話し合えようなどキーワードを絞ると、皆が興味を示し、連携がとりやすくなる。
	4	町会、学校、企業および地域の団体などが意見交換する機会を設けることが重要だと思う。この際、町会だけで声をかけてもなかなか集まらないが、地域包括支援センターが主体になると参加者が多くなる。
	5	当該町会には子どもが少ないので、近隣中学校に声をかけ、町会内に住んでいる子ども以外も行事に参加してくれるようになった。町会区域と校区が一致しないことは全てが悪いことではない。
	6	町会館を中学生の居場所として提供する取り組みを始めたいと考えている。
加入しやすい町会づくり	7	町会関係者以外の方が町会に入り込み何かに取り組んでいくことが必要だと思う。例えば大学や高等教育機関の地域プロジェクトとして学校が理解をして地域に入り込むことが効果的。外部のノウハウを活用することが大事。
	8	他都市でコンサルタント会社に活性化業務を委託しているが、新しい風を入れることになり非常に良い取り組みだと思う。
	9	コミュニティ・スクールを軸にすると活動しやすい。保護者世代も町会がどのような組織なのかを知るきっかけになる。
	10	子どもが参加する活動には、親と一緒に来ることが多いので、そこをきっかけに地域内での顔見知りが増え、町会活性化につながる。
	11	P T Aなど町会以外の団体も担い手がいないので、いろいろな組織で連携しよう。
	12	町会館に足を運ぶ仕掛けをつくる（町会館に行くと〇〇がもらえます、町会館では〇〇ができますなど）。
	13	待っていても状況は変わらないので、いろいろな「きっかけ」をつくる。
	14	地域にはいろいろと良い活動をしている団体があるが、町会も同じようなことをしている場合もある。そのようなときには地域の別な団体とも連携して一緒に活動することで活動の充実や人手不足等の解決につながる。
	15	金銭的にも人手的にも、町会だけで何かを行うことは限界がある。地域には社協や老人クラブなどあるから協力していくことでイベントを実施する。
	16	私の町会は区域に2つの学校があり、どちらの学校も複数の町会が校区に入っている。町会長同士で上手く連携しており、コミュニティ・スクールの委員も調整してくれているので連携を取り合っ活動している。
	17	町会と包括支援センターの連携により今後の高齢化社会に対応していけるのではないかとと思う。
	18	町会の回覧板を回す本来の目的は安否確認だと考えていて、私の町会では若い方にも隣の高齢者の安否確認も含めて回覧板をまわすよう依頼している。
	19	若い世代や子育て世代は、ツイッターなどのSNSを利用している人が多いのでそういった情報発信をしていくと良い。
	20	I Tは、高齢者には難しいから使わないというのではなく、高齢者にもつかえるような支援や意識改革をして、利用していく方が良い。
21	高齢者やSNSを使っていない人には使い方の講習会をしてみてもどうか。	
22	外国人は、町会ってどういう組織なのかかわからないと思う。日本人にも外国人にもわかりやすいやさしい日本語のリーフレット等を作ってみたい。	
23	昔から行っている活動が良いものという固定観念が強いが、子どもたちの力を借りることで、大人が思いつかない視点が生まれ、発想の転換に繋がる。	
24	不動産会社と町会が提携し、町会が作成した加入案内を管理物件や入居者に配ることで加入増につながる。	
25	会費のみ会員や子どものみ会員というように加入に関して選択肢を増やすことで少しでも多くの方が加入してくれるのではないかと。	
26	引っ越してきたが勧誘に行っていないなど、本来は、入ってもらえる人もいる。	
透明性・信頼性の確保	27	回覧板が単調になっているので、パソコンではなく手書きで目立つように、誰に何をしてもらいたいかなどを明確に伝える工夫をする。
	28	紙とメールの両方で情報を共有する。
	29	町会が担っている役割や活動内容、町会費の使い道など、はっきりした広報を行い、加入の勧誘を行うことが重要。
負担感の軽減	30	情報発信は、地域住民からの信頼感が醸成されないとだめだと思う。見て楽しい広報紙を作る。
	31	他の町会の取り組みを実際に見たり聞いたりすることで連携も図られ、良い活動を取り入れる機会になるのではないかと。
	32	東部4支所管内の町会連合会のように、町会の上部団体である方面町会や地区協議会等がもっと機能することで、町会同士の連携や学校との連携も上手くいくのではないかと。
	33	自衛隊OBに防災アドバイザーになってもらい、災害発生時の発電機の作動などに協力してもらおう。
	34	地域内の企業とも連携を深め、町会活動の手助けをしてもらう。
	35	「役員」ではなく「町会ボランティア」というような形で協力者を集める。
	36	子育て中のお母さんなどが、時間が無い中で空いた「細切りの時間」で、町会活動に参加や協力できるような工夫をする。
	37	クラウドファンディングやふるさと納税のように、目的のために寄付を募って活動する方法はできないか。
	38	定住せずに転居する方や企業など、賛助会員を呼びかけて財源を確保することも必要。
	39	税金として徴収することで、防災、防犯や高齢者問題に取り組むなど、市民全員が恩恵を受けるような仕組みをつくる。
	40	人口がどんどん減少しているので、収入も減っている。活動をたくさんしたいのにお金が足りない状況なので、活動を頑張っている町会にはもっと支援してほしい。
その他	41	特に東部は、支所長が裁量権をもてる使いやすい補助金を作ってほしい。
	42	参考として、小規模多機能自治という、住んでいる人が地域のまちづくりや自治を行うという制度がある。

1 これまでの「検討会議」における主な意見

(3) 意見の要約

【取り組みの方向性（案）】 自発的な参加の意識づくり			
課題 問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 町会の必要性に対する理解が不足している。 ■ 町会や町会活動への参加意識が希薄である。 	▶	提案 <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民に対する町会の必要性などの理解促進 ○ 主体的な参加を促す仕組みづくり
【取り組みの方向性（案）】 加入しやすい町会づくり			
課題 問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 若い人が町会活動に参加しやすい「きっかけづくり」が必要である。 ■ 地域内の多様な団体との連携強化が必要である。 ■ 各世代に届く分かりやすい情報共有の方法が必要である。 ■ 新たな意見や提案を受け入れる雰囲気づくりが必要である。 ■ 町会加入の積極的な勧誘が必要である。 	▶	提案 <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部ノウハウの活用 ○ 子育て世代が参加しやすい仕組みづくり ○ 町会活動への参加のきっかけづくり ○ 地域包括支援センター、学校、PTA、企業など地域内の様々な団体との連携 ○ 幅広い世代に向けての多様な情報発信 ○ 町会自身の意識改革 ○ 勧誘方法の工夫などによる加入促進
【取り組みの方向性（案）】 透明性・信頼性の確保			
課題 問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 町会運営や活動において透明性の確保が必要である。 	▶	提案 <ul style="list-style-type: none"> ○ 町会活動の見える化
【取り組みの方向性（案）】 負担感の軽減			
課題 問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 近隣町会との連携が必要である。 ■ 回覧板や集金業務の改善や工夫が必要である。 ■ 町会活動の費用を市民全員で公平に負担する必要がある。 	▶	提案 <ul style="list-style-type: none"> ○ 他町会との情報共有 ○ 外部人材の活用 ○ 町会ボランティア制度など気軽に参加しやすい仕組みづくり ○ 新たな手法による財源の確保 ○ 市からの財政支援の拡充